

流れの
先に



浄化用水

～文化・産業・環境が
結びつくまち 台東区～



「浄化用水」という言葉をご存じでしょうか？

浄化用水とは、汚れた川の水を希釈するために、別の川からきれいな水を引き入れることをいいます。

東京都内を流れる隅田川では、昭和39年（東京オリンピック開催年）から、「秋ヶ瀬取水堰*」により荒川からの浄化用水の注水が行われました。翌40年には「見沼代用水元坊」から取水し、利根川と荒川を結ぶ「武蔵水路*」を通り暫定的に利根川の水も活用し、43年には「利根大堰*」から本格的に取水し、荒川・利根川の水が浄化用水として流れ、隅田川の水質改善の大きな力になっています。

今回は隅田川の下流に位置する「台東区」の環境課を訪問し、台東区の魅力や隅田川についてお話を伺いました。

※いずれも埼玉県内にあり、水資源機構利根導水総合事業所が管理する施設

にぎわい いきいき したまち 台東区



昔から多くの参拝客で賑わう浅草寺などのある“観光”のまち「浅草」、博物館・美術館・動物園の集まる“文化”のまち「上野」、寺院や文豪家・伝統工芸の集まる

“歴史”のまち「谷中」など…有名な観光地も多い台東区。一度ならず何度も訪れたことのある方も多いことだろう。年間400万人もの外国人観光客が訪れるということだが、実は東京23区で一番小さな区（約10km²）でもある。

その小さな区内は観光地ばかりではない。江戸時代から庶民の町、江戸文化発祥の町であり、江戸簾・べっ甲などの伝統工芸が受け継がれるとともに、ファッション等の若手クリエイターも集まる“ものづくりのまち”でもある。台東区は日本有数の観光地であるだけではなく、まさに“文化・産業・観光が結びつくまち”なのである。

荒川・利根川からの浄化用水で隅田川をキレイに

東京の中心を流れる延長23.5kmの一級河川「隅田川」。江戸時代には泳ぐこともできるほど美しい川だったそうだが、昭和初期から生活排水や産業排水などが次々と流れ込み、悪臭が発生するなど水質汚染が進んでいたという。

「私が小学生の頃は、川の近くを歩くときは、鼻をつまんで歩いていくくらいです。」環境清掃部参事の平野さんは、昔を振り返る。

そんな川を蘇らせるきっかけとなったのは昭和



ヘドロや排水で汚れた隅田川(昭和33年)

利根大堰(水資源機構)



隅田川への浄化用水

39年の東京オリンピック開催である。「海外の方に汚い川は見せられない」と行われた対策が『下水道の普及、排水規制、汚泥のしゅんせつ、そして浄化水の導入』であった。平野さんは続ける。「多くの関係機関の努力で、隅田川の水質改善が進み、今は魚の棲める川へと蘇ってきました。」



夏の風物詩 隅田川花火大会

その結果、中止されていた隅田川花火大会や早慶レガッタも昭和52年から再開された。また、水上バスや屋形船などの“川を通しての観光”も近年定着してきた。

「それだけではありません。昭和40年代から高潮対策として作られた堤防も、今は親水テラスに生まれ変わりました。環境課でも、水質を定期的に調査することはもちろん、『ハゼ釣りや水辺観察』を行うなど、川で楽しみながら環境について学習する場も工夫しています!」

人情の溢れる区ならではの環境課の仕事

「私たち環境課で取り組んでいる仕事には、温暖化対策・隅田川の水質や生物の調査・まちの美化などがあります。」と環境課係長の小金谷さん。「区内には約4kmに渡り隅田川が流れていますが、隅田川の水質対策は、隅田川水系浄化対策連絡協議会*を発足し、『隅田川宣言』を掲げ、区だけでなく流域全体で取り

組んでいます。区では『うるおいのある生活環境づくり』を目標に、河川環境や地球温暖化などについての啓発を行っています。」

まちの美化については、区民のみなさんが積極的にボランティアとして活動してくれているという。「台東区は『江戸っ子魂』がまだまだ強く残っていると感じますね。私たち職員とともに、よりよい町へなるよう一緒に活動をしています。」ボランティア清掃隊“大江戸清掃隊”の会員はなんと約4,000人(280団体)もいるという。また、“グリーン・リーダー”は、上野駅の花壇の手入れなど区内の緑に関わる様々な活動をしている。

「私たち区からの働きかけではなく、区民の人から持ちかけてくる取組も少なくないんですよ。みなさんの『こうしたらもっと良いのでは』『やってみよう』という気持ちをサポートするのも私たちの役目です!」と小金谷さんはニコリ。

※隅田川水系浄化対策連絡協議会

隅田川とその支川の流域自治体9区が集まり、隅田川水系の更なる水質向上と環境の改善などをめざして活動を行っている。昭和59年に「隅田川宣言」を発表。合同水質調査などを行い、流域での河川を守る活動が進められている。

約50年前、東京オリンピックの際に浄化用水等が導入されて蘇った隅田川。6年後には、再び東京オリンピックが開催される。その頃には、より一層美しい隅田川に出会えるかもしれない。そして、観光やレクリエーションの場としてますます多くの人々が訪れることだろう。

誌面ではとても伝えきれないほどの魅力をもった台東区。みなさんも、下町グルメに舌鼓をうちながら、新しく生まれ変わった隅田川沿いを歩いてみては…。



清掃ボランティアの紋章である“はっぴ”を着ての清掃活動(大江戸清掃隊)



上野駅の花壇の手入れ(グリーン・リーダー)



環境ふれあい館「ひまわり」(台東区蔵前 4-14-6) 放課後は沢山の子供たちでにぎわう。体験型展示も多く、楽しみながら学べる施設。ピオトープも併設。

読者プレゼント

「重ね地図で江戸を訪れる 上野・浅草・隅田川歴史散歩」10名様



環境課のみなさんも「区の自信作!」と太鼓判の素敵な本をご提供いただきました。昔と今の台東区の様子を重ねて見比べることができます。ご希望の方は①住所 ②氏名 ③性別 ④年齢 ⑤電話番号 ⑥このコーナーを含む本誌の感想を記入の上、ハガキにて下記までお申し込みください。

■宛先 〒330-6008 さいたま市中央区新都心11番地2 平成26年8月31日(日) 独立行政法人水資源機構広報課 広報誌係 (当日消印有効)

※応募締切
当選者の発表は、プレゼントの発送をもってかえさせていただきます。いただいた個人情報の目的外利用はいたしません。



取材に協力して下さった環境課の皆さん(台東区環境課にて)